



結核しずおか

10号2002年9月20日

発行所

財団法人結核予防会静岡県支部
〒420-0915

静岡市南瀬名町6-20

TEL 054-261-2512

FAX 054-261-9474

Eメール tb-shizu@topaz.ocn.ne.jp

発行責任者 金原明彦

印刷 三協印刷株式会社



巻頭言

結核による死者43人、新たな患者871人。登録患者2,072人。これは、昨年の本県データであり、依然として多くの人々が結核で苦しんでいることを示しています。

一方、我々の生活や意識からみれば、結核患者は著しく減少し周りからも結核と言う機会や言葉も希薄となり、結核は既に過去の病気であると思っている人々が多いと思われれます。

我が国の経済発展に伴って、生活水準や衛生環境の著しい向上、医学の進歩などにより、結核罹患率は大幅に改善されました。

結核予防法が制定された昭和26年当時、年間の死亡者は約9万3千人、新たな患者は約59万人でした。それから半世紀を経て死者は約3千人、新たな患者は約3万5千人と、それぞれ30分の1、15分の1へと減少しました。

これは、行政、医療機関、結核予防会などが一丸となって結核予防法に基づく施策を取り組んできた成果であります。そして近い将来、結核の根絶も可能と思われましたが、現状ではなかなか難しいと言われています。

本県は、平成11年の「結核緊急事態宣言」を受け、医療機関や検診機関や市町村の代表者の方々などで構成する「静岡県結核対策推進協議会」を設置しました。

現在、本県の基本方針を見直し、患者の早期発見、治療の向上、適切な医療の提供などについてさらに積極的に取り組むよう、医療機関との連携や保健所における対策などの強化を図っております。

また、県では、10万人当たりの結核罹患率を20以下、全国順位10位以内を当面の目標として掲げ（平成13年度：罹患率23、順位13位）、結核患者を一人でも少なくするとともに、新たな総合計画が掲げた「富国有徳」の基本理念を実現するため、健康長寿日本一を目指す健康県づくりを推進してまいります。

平成14年9月

静岡県健康福祉部長

木本 陽三



全国・静岡県の結核の統計

新登録患者数、罹患率は、年を追う毎に減少の一途を辿っているが、平成11年には突然増加に転じている。その後、また減少となり13年における本県の新登録患者数は871人と過去最低を記録している。これは昭和36年時の14分の1である。

新登録患者数の年齢構成は、相変わらず60歳以上が67%と大きな比率を占めており、体力等が弱まる高齢者には、定期健診や日頃の健康チェックが特に大切である。

一方、13年度は住民検診受診率が、5年前の44%に逆戻りしていることが懸念される。

結核の統計（静岡県健康福祉部疾病対策室資料より抜粋）

1. 結核登録患者（登録患者数及び新登録患者数の推移 *平成10年以降は新活動性分類による） (人)

区分 年次	年 末 現 在 登 録 患 者 数				年 内 新 登 録 患 者 数			
	全 国		本 県		全 国		本 県	
	患者数	10万人対	患者数	10万人対	患者数	10万人対	患者数	10万人対
昭和36年	1,615,099	1,717.1	38,692	1,391.1	419,424	445.9	12,235	439.9
40	1,469,583	1,495.4	35,854	1,231.0	304,556	309.9	7,611	261.3
45	1,072,013	1,032.2	24,520	793.6	178,940	172.3	4,444	143.8
50	726,862	649.6	16,695	504.6	108,088	96.6	2,751	83.1
55	472,356	404.3	10,599	307.5	70,916	60.7	2,020	58.6
60	306,262	253.1	7,086	198.2	58,567	48.4	1,711	47.9
平成元年	238,189	193.2	6,737	184.2	53,112	43.1	1,549	42.4
5	191,584	153.6	5,170	139.3	47,437	38.0	1,367	36.8
6	181,470	145.1	4,903	131.7	44,590	35.7	1,406	37.8
7	168,581	134.3	4,536	121.3	43,078	34.3	1,240	33.2
8	132,958	105.5	3,459	92.3	42,472	33.7	1,125	30.0
9	121,762	96.6	3,086	82.1	42,715	33.9	1,105	29.4
*10	107,058	84.6	2,417	64.3	41,033	32.4	962	25.6
*11	104,813	82.7	2,463	65.2	43,818	34.6	1,044	27.7
*12	99,481	78.3	2,279	60.4	39,384	31.0	896	23.8
*13			2,072	54.9			871	23.1

2. 結核死亡者数

年次	全 国	本 県	死因順位(全国)
昭和36年	27,916	652	7
40	22,366	560	7
45	15,899	402	8
50	10,567	271	10
55	6,439	131	13
60	4,690	126	16
平成元年	3,525	90	18
5	3,249	75	21
6	3,094	76	23
7	3,178	104	23
8	2,858	71	22
9	2,742	60	22
10	2,795	83	22
11	2,935	67	21
12	2,650	30	24
13		43	

3. 新登録患者年齢構成（静岡県） (%)

区分 年次	年 齢 別 構 成 比						
	~19歳	20代	30代	40代	50代	60代	70歳~
昭和36年	20	15.9	18.3	13.2	13.4	12.6	6.6
45	12.8	12	12.8	15.4	15.4	18.6	13.0
55	3.6	6.5	8.9	11.6	19.2	22.7	27.5
60	2.9	5.8	6.4	10.3	17.4	22.3	34.9
平成元年	2.3	6.8	6.2	9.7	16.4	21.1	37.5
5	1.4	6.8	4.2	8.2	14.0	25.8	39.6
6	1.6	5.7	5.9	8.2	14.6	24.1	39.9
7	1.9	5.6	5.1	9.9	13.2	22.5	41.8
8	1.8	6.8	5.4	9.2	13.3	23.5	40.0
9	1.4	8.0	7.0	8.0	10.5	22.2	43.0
10	2.1	5.7	4.7	9.0	12.2	20.9	45.4
11	1.4	6.8	6.2	7.5	11.3	17.9	48.9
12	1.2	5.7	5.7	7.6	12.3	16.1	51.5
13	1.0	6.2	5.3	6.3	13.7	18.1	49.4

4. 住民検診受診状況（静岡県）

区 分	年 度	8	9	10	11	12	13
対象者数 (人)		1,211,572	1,074,279	1,007,961	1,059,905	1,057,383	1,124,633
受診者数 (人)		532,524	501,725	493,391	502,991	490,461	495,005
県受診率 (%)		44.0	46.7	48.9	47.5	46.4	44.0

市町村保健センターの紹介



大須賀町保健センター

大須賀町保健センターは、町民の健康づくりの拠点として、昭和54年2月に開設されました。

保健事業については、基本健康診査として（平成14年度からは、節目検診として歯周病検診、骨密度測定を合わせて実施）胃がん・大腸がん検診、婦人科検診（子宮がん、乳がん）、結核・肺がん検診等の検診事業や生活習慣病予防教室、また乳幼児健康診査及び相談（3か月、7か月、1歳、2歳、2歳6か月）、離乳食教室、育児教室等の各種母子保健事業並びに予防接種事業、健康教育、健康相談、リハビリ教室、訪問指導を行っています。

当センターでは、これらの保健事業を通じて、町民に広く健康づくりに関する知識や情報を提供し、「自分の健康は自分で守る」という意識の高揚を図り、健康で温もりのある町づくりを目指しています。

大須賀町では、毎年基本健康診査受診者に対し、結果説明会を設け、受診者の生活改善の支援を行っています。今回は、健康日本21の理念に基づき、個々の目標に向かった健康づくりの実践をするため受診者自らが、健康問題に気づき、日常のライフスタイルの中で一つでも実践可能なことはないか一緒に考え、生活習慣病の発生や進行の予防ができるよう努めました。

また、現在国保の補助事業を受けており、基本健康診査受診者の要望に応え運動実践の場を提供しています。昨年までは、ウォーキングをテーマに行いました。このウォーキングは美しい姿勢を意識することにより、運動効果が2倍にも3倍にも広がるものです。4回の講座を開催し受講生からは、「膝の痛みがなくなった。」「ウォーキングに対するイメージが変わった。」との声が聞かれました。

今年度は、テレビの健康番組などで注目されている「筋力アップ・トレーニング（筋トレ）」を行います。退職者の方を中心にモニターを募集し、3か月間処方された個別メニューを実践してもらいます。

既に定員を超える応募がきており、成果が期待されるところです。（大須賀町 保健師 藤田 和代）



全国結核予防週間が始まります

平成14年9月24日(火)～30日(月)

結核予防法が制定されて50年余、わが国の結核事情は大幅な改善を遂げてきましたが、今なお毎年約4万人の新規患者が発生し、約3千人が亡くなるなど、罹患率、死亡率は先進国の中で最も高い状況にあります。国では、平成11年7月に「結核緊急事態宣言」を行い、その後、平成12年には罹患率が減少しているものの、依然として宣言前とほぼ同水準で推移しています。

結核予防週間を機会に、国民の結核に対する関心を高めるとともに、結核に関する知識を深め、結核対策の推進に一丸となって取り組むこととしています。

静岡県結核予防大会の開催

静岡県結核予防婦人会と共催で、静岡県の後援並びに市町村の協力を得て、開催します。

- 1 開催日 平成14年9月27日(金) 午後1時から
- 2 会場 静岡県総合社会福祉会館 7階 大ホール
- 3 内容 ①結核予防事業功労者、功労団体の表彰
②特別講演
・講師 山下武子先生(結核予防会事業部長)
・演題「生まれかわりますー結核対策」
・講演時間 午後2時から



(昨年の大会状況)



(昨年の大会状況)



(昨年のキャンペーン状況)



(昨年のキャンペーン状況)

結核予防週間キャンペーンの実施

静岡県、静岡市、静岡県結核予防婦人会と協力して実施します。

- 1 実施日 平成14年9月28日(土) 午前11時から
- 2 場所 静岡市青葉イベント広場・静岡駅コンコース
- 3 内容

①街頭キャンペーン

結核予防のリーフレット、ポケットティッシュなどを配布し、結核予防を呼びかけ、併せて複十字シール募金活動を行います。

②展示広報

結核予防や健康について理解を深めていただくため、パネルやX線撮影装置等を展示し、機器にふれる場を設けるとともに、結核、肺がんに関する健康相談や健康測定を行います。



(昨年のキャンペーン状況)



(昨年のキャンペーン状況)



(昨年のキャンペーン状況)



(昨年のキャンペーン状況)

◎静岡県結核予防婦人会各支部の協力を得て、県内各地において複十字シール募金運動、街頭キャンペーンを実施し、結核予防思想の普及啓発を図ります。

複十字シール募金運動にご協力を

平成13年度の募金総額 27,990,168円
 内訳・組織募金 25,004,387円
 (静岡県結核予防婦人会協力)
 ・郵送募金 2,985,781円

募金にご協力
 いただきますと
 税制上の優遇措置が
 受けられます



複十字シール募金運動は、結核予防婦人会の協力のもとに行われる「組織募金」と当結核予防会から直接郵送させていただく「郵送募金」の2本立てで成り立っています。「郵送募金」は、個人や会社等にシールを郵送し、多数の見知らぬ方々に複十字シール募金運動を知っていただく機会として、また運動の趣旨をご理解いただくための一つの方法と考えております。

皆様からの多くの善意の募金は、検診機器(検診車等)の整備、結核予防の広報教育・調査研究、結核予防事業の助成や発展途上国の結核対策援護などへと大切に使われています。



(検診車シール号)



(発展途上国への結核対策援護)



コラム

○ レントゲン車での検診を受けて

私は生まれてこの方68年もの間、大きな病気一つしたこともなく定年を迎え、その後シルバー人材センターにお世話になり、定年後をととても楽しく過ごしていました。

平成12年のことです。その年に胸部レントゲン検診を受けていないことに気がきましたが、地域検診は既に終わっておりました。いつもなら来年にと思うのですが妙に気になり、12月初め富士市保健福祉センターで行われるレントゲン車による胸部追加検診を受けると、要再検査との思わぬ結果でした。暮れも押し詰まった12月27日に国立富士病院で精密検査を受け、肺に腫瘍があると診断され、明けて1月4日入院、早期発見で良かったと言われながらも検査・点滴4か月、そして手術、放射線治療と入退院を繰り返しました。

おかげ様で現在では、日常の生活が送られるようになりましたが、あの時レントゲン車での検診を受けて本当に良かったと思っております。



集団検診の制度を利用して「胸部疾患への正しい理解」、「早期発見」、「早期治療」の大切さを再確認する為にも、皆様に住民検診の持つ役割の大きさを分かっていたいただきたいと願っております。そして、一人でも多くの方に自分の住む地域まで出向いてくれるレントゲン車による検診をお勧めいたします。

最後に、検診に携わっていただいたスタッフの皆様には厚く御礼申し上げます。
(富士市 小野寺 孝吾)

○ 検診業務に携わってみて

みなさん、はじめまして！！結核予防会静岡県支部に今年の4月よりお世話になっております榊原智子です。またの名を“三～瓶～です！”みなさん私の顔を見かけましたら、合言葉は“三～瓶～です！”

当会に入社した当時は、検診業務は病院と違い、健康な方が対象となるので、受診者の方には検診を受けに来てあげている、と言う気持ちが強いのではと思っていました。(受診者のみなさんすみません。)ところが、一旦検診に出てみますと、その様な考えは一気に吹き飛んでしまいました。と申しますのは、どちらの検診に伺いまして、とても温かく迎えて頂いたからです。

特に、私は今、富士市の住民検診を担当させて頂いておりますが、検診担当の方々を始め住民の方々には、大変温かく迎えて頂きました。1時間に100名以上の方の胸部写真を撮影しなければならない住民検診では、住民の方がどのような服装で来られるかは大変に重要な事です。そんな中、富士市の住民の方々はレントゲン車で着替えなくてもいいように、家からわざわざ着替えてきて下さったり、私が「脱いで下さい。」と言う前に脱いで待っていて下さる方がほとんどで、とてもスムーズに検診を行うことができます。しかも、私自身もとても気持ち良く検診業務をさせて頂いております。それもこれも住民の方々の御協力があってこそですし、大変感謝しております。この場を借りてお礼申し上げます。

今後は、自分だけでなく、受診者の方々にも気持ち良く検診を受けただけの様日々精進してまいりたいと思っております。

また、私が病院と検診業務とのギャップに悩まされる事なく、自分でも驚く程すんなりと、当会に溶け込むことができたのは、すばらしい上司の方々に巡り会えたおかげだと思っております。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。
(検診部検診課 榊原 智子)



連載 なぜ・なぜ・なぜに

「自然放射線」からの「被曝」って何ですか？

自然放射線からの被曝には、「①体外被曝」「②体内被曝」に分けられます。

①体外被曝（宇宙線と地殻中からの被曝）

宇宙線とは、文字通り宇宙から降りそそぐ放射線で、特に空気と衝突して出来た放射線を言います。赤道付近や山など高所の方が数値は高くなります。

地殻中からの被曝は、土壌・岩石・鉱石中に放射性物質が存在しており、直接または加工された建築材（コンクリート・鉄材など）から出る放射線です。前者は、年間平均0.35mSv、後者は0.4mSvの被曝です。

②体内被曝（食物・水・空気などにより被曝）

土壌や水から放射性物質を吸収した食物を私たちが摂取することにより被曝し、また空気は吸い込むことにより被曝します。食物・水を合わせると年間平均で0.35mSv、空気からは、やや多くて1.3mSvの被曝となります。

これらを全部合計すると、私たちは年間平均2.4mSvになりますが、人体に被曝しても障害にならない目安は250mSvと言われております。

ここでmSv（ミリシーベルトと読む。）という単位が使われていますが、これは放射線防護を表す単位でKg、Kmとかcalと同じだと思って下さい。

したがって、地球上で人間が生活を始めてから今日まで、人類はずっと自然放射線による被曝を受けていることになります。

（検診部検診課 渡井 雅文）



○ 検診の季節

4月になると学校検診をはじめ各種検診が一斉に開始され、当会は急に忙しくなります。

春から秋までに集中するこの間は、職員は力を合わせて業務を消化しています。

検診が開始されて間もないある日のことです。某保健所から、管内で塗沫陽性の結核患者が発生したため地域の皆さんを対象に行う定期外検診（接触者検診）の依頼がありました。

この時期は既に予定した検診で一杯ですが何とか日程を調整して検診を済ませましたが、結核患者さんを追跡調査して意外なことが判りました。その患者さんは、昨年当会が実施した検診で「要精密検診者」となり、当会では早々に依頼先への報告と共に本人宛てにも医療機関への紹介状をお渡ししてありました。

それでも結核が発生したことは、どんな理由があったのでしょうか。さらに調べますと、その方は紹介状を受け取りながら医療機関に受診していなかったため、とうとう発病してしまったという顛末でした。

紹介状を持ってすぐに医療機関へ受診していれば早期に発見されたことでしょうか、長期間放置してからの発病は深刻です。それは個人の問題にとどまらず、家庭から職場や地域にまで社会的な影響が生じてきます。また、検診現場では結核が発生する恐れが窺える場面にしばしば出会います。「久し振りだから来てみた」とおっしゃる方々をはじめ、「良くない結果が出ても、誰にも言わないで欲しい」と予後を心配される方、「自分は忙しい」「私だけは大丈夫だ」という方もおられ、毎年の検診がなぜ必要かの認識を持たない、あるいは避けようとする人達が多いことも結核が減らない理由のひとつに思えます。

結核対策は、「徹底した検診の呼びかけ。確実な実施。フォローアップ。」が必要ですし、要精密検診者は患者さんではありませんが、3C（Check:検診,Chase:追跡,Control:調整）の強化を図るなど、私達関係者の一人ひとりが感染症を再認識し、受診者への啓発、指導にあたりたいものです。

（技監 宮本 唯男）

キ～オさんの～冒

作画 こーいす



お知らせ

10月中旬新しい検診車が導入されます
 14年9月25日東京にて総裁 秋篠宮妃殿下から授鍵を経て10月中旬胃・胸部兼用検診車が当支部に導入されます。けいりんD-770号と命名されています。



みんなそろって健康診断
 結核検診
 肺がん検診
 胃がん検診

財団法人結核予防会ではホームページを開設しております

ホームページアドレス <http://www.jata.or.jp/>

静岡県支部Eメール アドレス tb-shizu@topaz.ocn.ne.jp

複十字シール

✠ DOUBLE-BARRED CROSS SEALS 2002 ✠

JAPAN ANTI-TUBERCULOSIS ASSOCIATION



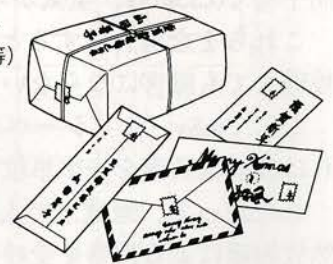
みんなの力で結核や肺がんをなくすために
 複十字章は世界共通の結核予防運動の旗印です

シールデザイン・安野光雅
 アートディレクター・山田輝郎

この作品の中には、縄跳びする子供、西洋の狩人、お髭の船長さん、そしてサーカスの象からおたまじゃくしまで、さまざまな大きさの動物やいろいろな乗り物、お日様や楽器やエトセトラ。「みんながいっしょに生きている」という楽しさいっぱいの絵で構成されています。

シールの使い方

シールは手紙や包装の封印、ハガキ(年賀状・暑中見舞等)に貼ってご使用下さい。



新刊案内

2002. 9

結核予防会発行の出版案内作成

お申し込みは当予防会まで!!!

ご希望があれば出版案内差し上げます。

新職員紹介



平野 久一郎 (総務部長)

平成14年7月1日採用
 よろしくお願いたします。



編集後記

近頃は、あの連日の猛暑が嘘のような過ごしやすい時期となりました。今回は、結核予防週間中における行事等に紙面を割いて、一層の啓発を図ることとしました。「忘れた頃に猛威をふるう結核菌」、「他人事だと思っていたら大間違い!」…検診は自分のため、人のため。必ず年1回は受けましょう。…を啓発の合言葉に結核制圧に努めてまいります。(A. K)

【題字：田中隆 元支部職員 表紙撮影：白鳥岩男 事業部長】